



空き家利活用コンテスト2022 最優秀賞



非住宅部門

事例 01

Hama Villa (ハマヴィラ)

心の旅を演出する一棟貸しの宿
本と音楽と空間がくれる特別な時間

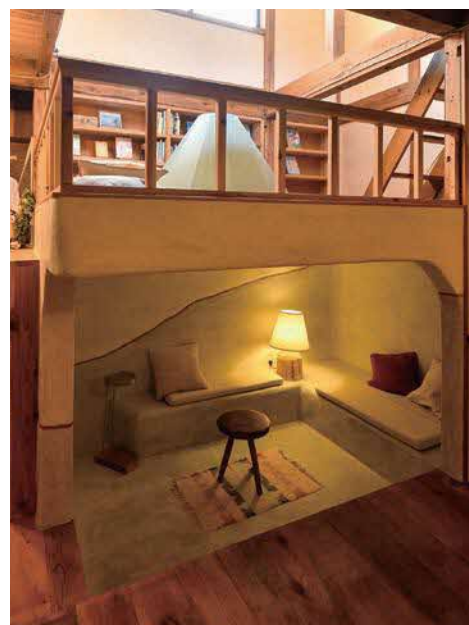


1階のリビングルーム。左側はキッチン。中央の廊下左側にシャワー室・洗面所・トイレがあり、その突き当たりが寝室。一貫したコンセプトと斬新な発想力で、コンパクトなスペースの中に来訪者を魅了する心地良い空間を実現している。

鳥取市気高町の浜村温泉街にある一棟貸切型の宿泊施設「HamaVilla」のコンセプトは、「本と音楽に耽(ふけ)る」こと。ただ寝泊まりするだけでなく、カルチャーに触れる体験の提供にも重点を置く。ゆえに施設内には、鳥取市内のレコードショップがセレクトしたCDやレコード、湯梨浜町の書店の選書がズラリ。そして、コーヒーを片手にゆったり過ごせるスポットが幾つも設けられている。中でも中2階下の“洞窟”スペースは独創的。リビングとつながっていながら包み込まれるようなプライベート感があり、不思議に落ち着く空間だ。

受賞者は平成29年に浜村温泉に移住、空き店舗を改修して飲食店兼イベントスペース兼シェアハウスを開くなど、にぎわいを失って久しい温泉街の活性化を継続的に試みている。かつては美容室だったこの物件の利活用も、そうした活動の延長線上にある。

令和3年6月のオープン以来、県内のみならず都市部の若者からも注目を集めている。デザイナーや建築家といったクリエイター、フリーランスの人々が訪れる割合が比較的高く、“クリエイティブなインスピレーション”を求める層に注目されているようだ。



中2階のホール下に造られた“洞窟”は、本と音楽に没頭できる唯一無二の空間だ。県内の左官職人が考案したオリジナルの技で仕上げられている。



南北に長い物件で、東西に隣接する家との距離も近いので、もともと1階は薄暗い場所だった。真上にあった2階の床を一部抜き、中2階を造ることで1階リビングに陽光を入れたアイデアは秀逸。残った2階の窓際も、コンセプトとマッチした寛ぎのスペースになっている。



穏やかな川の流れ、対岸の緑、優しい陽光に癒される2階の寝室。真下にある1階の寝室も同じ仕様。



施設内に置いてある数々のCDやレコード、書籍は自由に試聴・試読できる。また、音に包まれるような体験をしてほしいと、スピーカーは鳥取市の職人が屋内での響きにこだわって独自に制作したものを使用。

[DATA]



【所在地】鳥取市気高町勝見695-20 【構造】木造2階建て
 【築年月】昭和40年代
 【改修後の用途】一棟貸しの宿泊施設
 【間取り構成】個室2室、ダイニングキッチン、リビング(洞窟)、
 ホール(中2階)、トイレ・シャワー室
 【改修期間】2020年11月～2021年3月
 【改修費用】約700万円